

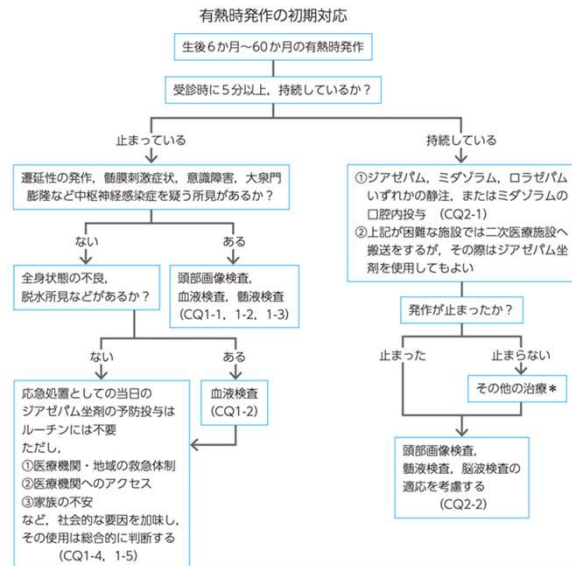
8月29日 朝の勉強会 テーマ「熱性けいれん」 Y先生

目標

熱性けいれんの定義・分類がわかる

熱性けいれんの初期対応がわかる

入院・帰宅の判断、保護者への説明ができる



Take Home Message

熱性けいれんは、おもに生後6ヶ月～5歳までの乳幼児に起こる

発熱に伴う発作性疾患で単純型・複雑型に分類される

けいれんが自然頓挫していれば、重症疾患示唆する所見がないか確認し、問題なければ経過観察。

けいれん持続していれば、気道確保・酸素投与・ルート確保を行い、抗けいれん薬投与（ルート確保できない時は頬粘膜投与）

同一発熱機会の複数回のけいれん、意識障害遷延、神経学的異常など認めた場合は入院を考慮。

帰宅の場合は、保護者の不安を煽らない事に注意し、病院内に受診が必要な場合の説明を行う。